



吸収する。

高校時代から政治に関心があったので、将来は地方自治に関わる公務員になり、自分が生まれ育った地域へ貢献したいと思っています。そのためには法律や行政についての基礎知識が必要だと考え、法学部を選択しました。ゼミでは税制改革や行政改革など、現代行政に関する問題をテーマに議論しており、先輩や友達の鋭い考察には毎回刺激を受けています。

法学部 法学科 政治・行政学コース 3回生
Dougasaki Megumi
堂ヶ崎 恵

法学部



法と政治の視点から

現代社会を考える

社会科学の素養と 法的思考を身につける

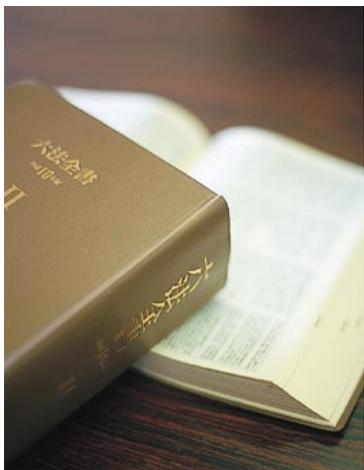
法学部で学ぶことの目的は次の三点にあると考えています。第一には、現代社会に生じる諸現象を冷静に分析し、将来の動向を的確に予測するために必要な「社会科学の素養」を身につけること、第二には、人々の間に発生する多様な複雑な諸問題を正確に把握し、正義にかなった適切な解決を示すことのできる「法的思考（リーガルマインド）」を身につけること、第三には、裁判官・検察官・弁護士などの法律専門職や公務員などの行政専門職につくための必要な基礎的能力を習得することです。

新しい時代のニーズに 対応したコース

法学・政治学は人間の歴史の中で積み重ねられた学問であると同時に、社会の新たな変化に立ち向かう学問でもあります。そこで、法学教育の伝統を受け継ぎ、豊かな法的思考を培うために、基礎法・公法、私法の講義を中心とした「法学コース」、国際化時代にふさわしい法的思考を培う「国際関係法コース」、現代政治への分析・洞察力を培う「政治・行政学コース」を設置

しています。

法学部で学び、豊かな社会科学の素養と法的思考を身につけた卒業生は、これまでに、裁判官、検察官、弁護士などの法律専門職はもちろんのこと、国際機関職員、公務員、民間企業などさまざまな分野に就職し、いずれの分野でも高い評価を受けています。



こんな学生を求めています！

丸暗記で得た知識では激動する現代社会には通用しません。法学部では刻々と変化する社会において、その複雑な諸現象を客観的に分析・判断するとともに、自らの考えを創設しようとする主体的な学生に入学してほしいと考えます。

法学部はわかりQ & A

Q 法学部ではどのような勉強をしますか？

A 法学部、と言うと、すぐ六法全書を思い浮かべて、法律の条文を覚えることが勉強だと思っている人が多いようです。法学部には、法学コースとともに、政治・行政学コースや国際関係法コースがあり、日本社会とともに国際社会を考えることが求められます。法学部は教員も若く、現代社会の問題に果敢にチャレンジしています。教員と一緒に、社会の生きた問題を、主体的に取り組んでいくことが学生の皆さんの「勉強」となります。

Q 卒業後の進路は？

A 法学部を出るとみんな法律関係の仕事に就くのではないかと思っている人もいますが、卒業生の進路は多様です。法律専門職の他、公務員、製造業、銀行、保険、証券、新聞テレビなどマスコミ、サービス業、大学院への進学など、毎年卒業生は幅広く活躍の道を求めて巣立っています。そして、進路選択で最後に物をいうのは、大学のゼミや講義、あるいは友人関係の中で地道に培った基礎的な学力と豊かな人間性です。

Q 弁護士になりたいのですが、どうすればいいのですか？

A 司法試験は大変難関ですが、法学部では、回生から専門科目が履修でき、基礎から専門へと系統的に学べるカリキュラムを編成し、しかも全国的にも際立った少人数教育という恵まれた環境です。また卒業後は、ロースクール、法科大学院、二〇〇四年設置予定への門戸も開かれます。法学部は学生数あたりの合格率では全国有数の実績を誇り、本学出身者は法曹界で高い評価を受けています。



法学部



若手教員を中心とする
充実した教員集団による
密度の高い少人数教育

法学部では、大学教育においては、研究者として優れていることが良い教育者であることの必要条件であると考え、実力本位で、全国各地の大学から、優れた研究者を教員として採用することに努めてきました。そして現在では、法学・政治学の各分野における研究の第一線を担い、また将来を期待される中堅・若手の研究者を中心とした、全国的に見てもきわめて若い教員集団を擁する学部となっています。法学部で学ぶことの魅力の一つは、二回生前期の基礎演習・二回生から履修可能な外書講読・三・四回生での専門演習等の少人数教育を通して、このような充実した教員集団との密度の高い交流の機会が得られることにあります。ここでは、専門的な学問のみならず、研究者としての姿勢や人間としての生き方など、たくさんの方が学べるはずですよ。

社会人に開かれた
第二部

本学部は、夜間に授業を行なう第一部を設けています。生涯学習のニーズに応じて、社会人などの学士入学者を積極的に受け入れ、成果をあげています。また、学生一人ひとりの自主的な学

習を重視し、自由選択制のカリキュラムを採用しています。

主要専門授業科目

【基礎法学部門】法哲学／法社会学／法情報学／日本法制史／日本近代法制史／東洋法制史／西洋法制史／ロム法／基礎法学特講

【公法部門】憲法第一～二部 基本的人権、統治機構／行政法第一～三部 総論、各論、行政救済法／租税法／刑法第一～二部 総論、各論／刑事訴訟法／刑事政策／公法特講

【私法部門】民法第一～五部 総則、物権法、債権総論、債権各論、親族・相続法／民法特講／商法第一～四部 総則、商行為法、会社法、手形・小切手法、保険・海商法／証券取引法／商法特講／民事訴訟法／民事執行・保全法／倒産法

【社会法部門】労働法第一～二部 集团的労働法、個別的労働法／社会保障法／経済法／社会法特講

【国際関係法・外国法部門】国際法第一～二部 平時国際法、紛争処理法／国際組織法／国際経済法／国際取引法第一～二部 公法的側面、私法的側面／国際私法／英米法／ドイツ法／フランス法／アジア法 中国法／ロシア法／外国法特講

【政治・行政学部門】政治学／日本政治／比較政治学／政治過程論／政治学史／日本政治思想／日本政治外交史／欧州政治外交史／アメリカ政治外交史／国際政治／海外地域研究／行政学／公共政策論／都市政治／都市行政論



一～二／政治学特講

【共通部門】法学特講／外書講読 英語、ドイツ語、フランス語、中国語／基礎演習／専門演習

大阪市立大学法学会

法学部の専任教員、賛同者および法学部学生・法学研究科院生を会員とする任意団体が大阪市立大学法学会です。法学、政治学に関する研究およびその助成、「法学雑誌」、「法学叢書」の刊行と学生の研究・教育活動への援助、また、講演会・法廷傍聴・法律事務所訪問などの開催を主な活動としています。

大阪市立大学無料法律相談所

法学部では、学生と教員による無料法律相談を定期的に実施し、市民の期待に応えるとともに、学生が「生きた法律学」を学ぶ恰好の機会を提供しています。